

## 「自分の魅力は何か？」を考えてみよう

校長 博田 英明

皆さん、新年明けましておめでとうございます。校長の博田です。新しい年の始まりとともに、第3学期がスタートしました。冬休みを終え、新しい気持ちで登校してきた皆さんの表情を見て、私も心が引き締まる思いです。今日からまた、皆さんと共に歩めることを、私は何より嬉しく思っています。

さんが今歌ったばかりの本校の校歌には、私がとても好きな一節があります。それは、

「自分は何をやりたいのか、自分には何ができるのか、自分は何が得意なのか、自分の魅力は何か」

というフレーズです。これは、皆さんの未来を開く「鍵」のような言葉で、皆さんが高校生活を送るうえで、そして将来に向かって歩むうえで、大切にしてほしい問いかけです。しかし、この問いの答えは、簡単に見つかるものではありません。大人になった私たちでも、自信を持って答えられないことがあるほどです。だからこそ、皆さんには焦らなくていいと言いたいです。答えは、毎日の中に少しづつ見つかるものだからです。

具体的に話をします。私たちが今、当たり前のように使っているスマートフォンを頭に浮かべてください。これを考え出した人は、一体どのようにしてこのような便利なものを頭に思い浮かべ、どうしてこのようなデザインにしたのか？ 音楽プレーヤーの iPod やスマートフォンの iPhone などを世に出したアップルの創業者、スティーブ・ジョブズ氏は、スタンフォード大学の卒業式における卒業生に向けたスピーチの中で “Connecting the dots (点と点をつなげる)” という話をしました。Dot、つまり「点」を connect、「つなげる」という意味です。ジョブズ氏は、大学を中退後にふとした興味から、文字を「美しく書く」ことに重点を置いた手書き文字の技法を学ぶカリグラフィー講座を受講し、そこで学んだ美しい文字の概念が、後にマッキントッシュ・コンピュータの多彩なフォント設計に生きたと語り、「点」と「点」は後からつながると示

しました。つまり、今の出来事が、将来どうつながるかなんて、誰にも分らない。だけど、ある日振り返ると、まるで最初から決められていたかのように、「点」と「点」が「線」になり、「あの経験があったから今の自分がいる」と気づく瞬間がある。ジョブズ氏は、そう語ったのです。一つひとつのアイディアが繋がり、その成果のひとつが、スマートフォンなのです。

皆さんの日々も同じです。授業で学んだこと、部活動での挑戦、友人との会話やすれ違い、時にはうまくいかなかった経験でさえ、それらは必ず皆さんの「点」になります。それらはすぐにはつながりません。しかし、後になって振り返る時、自分が歩んできた道が一本の「線」となり、「あの経験があったから今の自分があるんだ」と気づく瞬間が必ず訪れます。

そこで皆さんには、この一年、ぜひ心に留めてほしいことがあります。それは、「自分の心が、ほんの少しでも動いたら、それを大切にする」ということです。やってみたいと思ったら、まずは動いてみる。できるかどうか分からなくとも、扉をノックしてみる。その小さな勇気が、未来の「点」となり、それらの点が集まって「線」となります。やりたいと思ったことに、まずは小さくとも一歩を踏み出す。自分ができることや得意なことに気づいたら、それを伸ばしてみる。「これは自分の魅力かもしれない」と感じたら、どうか否定せず、育ててください。皆さん一人ひとりの魅力は、世界にたった一つの個性です。そして、もし失敗したとしても大丈夫です。失敗した経験こそ、人の心を強くし、優しさを育てます。ジョブス氏が言ったように、その失敗もまた、いつか必ず誰かを救う「点」となり「線」になる日が来るはずです。

皆さんの先輩として私から言えるのは、高校生活はあつという間だということです。でも、その中で得た経験や出会いは、皆さん的人生に深く根を下ろしていきます。今日のこの日もまた、皆さんの未来につながる大切な点です。皆さん一人ひとりには、まだ見えていない大きな可能性があります。この3学期が、その可能性の扉を開くきっかけになることを願っています。皆さんのが自分の人生を「自分の力で描いていく」その第一歩を、私は心から応援しています。

共に、素晴らしい一年をつくっていきましょう。